

# 平成30年度 第8回高土区地域協議会 次 第

日時：平成30年12月18日（火）午後6時30分～

会場：高土地区公民館 2階 中会議室

**所要時間：70分**

## 1 開 会（5分）

## 2 会長挨拶

## 3 議 題

### （1）地域おこし協力隊の制度等の説明について（50分）

説明：自治・地域振興課

#### ① 制度説明（35分）

#### ② 質疑応答（15分）

### （2）三郷区地域協議会との意見交換会について（10分）

## 4 その他（次回の開催日程について）（5分）

### ■次回の開催日

日時：平成31年1月 日（ ） 午後6時30分～

会場：高土地区公民館 大会議室

内容：三郷区地域協議会との意見交換会

### ■次々回の開催日

日時：平成31年2月 日（ ） 午後6時30分～

会場：高土地区公民館 中会議室

内容：地域活動支援事業 採択方針等の見直し

## 5 閉 会（5分）

# 地域おこし協力隊について

## 地域おこし協力隊とは

- **制度概要**：都市地域から過疎地域等の**条件不利地域に住民票を移動**し、生活の拠点を移した者を、地方公共団体が「地域おこし協力隊員」として委嘱。隊員は、一定期間、地域に居住して、地域ブランドや地場産品の開発・販売・PR等の地域おこしの支援や、農林水産業への従事、住民の生活支援などの**「地域協力活動」を行いながら、その地域への定住・定着を図る**取組。
- **実施主体**：地方公共団体
- **活動期間**：**概ね1年以上3年以下**
- **地方財政措置**：
  - ◎ 地域おこし協力隊取組自治体に対し、概ね次に掲げる経費について、**特別交付税措置**
    - ① 地域おこし協力隊員の活動に要する経費：隊員1人あたり400万円上限  
(報償費等200万円〔※〕、その他の経費(活動旅費、作業道具等の消耗品費、関係者間の調整などに要する事務的な経費、定住に向けた研修等の経費など)200万円)  
※ 平成27年度から、隊員のスキルや地理的条件等を考慮した上で最大250万円まで支給可能とするよう弾力化することとしている(隊員1人あたり400万円の上限は変更しない。)
    - ② 地域おこし協力隊員等の起業・事業承継に要する経費：最終年次又は任期終了翌年の起業する者又は事業を引き継ぐ者1人あたり100万円上限
    - ③ 地域おこし協力隊員の募集等に要する経費：1団体あたり200万円上限
  - ◎ 都道府県が実施する地域おこし協力隊等を対象とする研修等に要する経費について、普通交付税措置(平成28年度から)



## 地域おこし協力隊導入の効果

～地域おこし協力隊・地域・地方公共団体の「三方よし」の取組～

### 地域おこし協力隊

- 自身の才能・能力を活かした活動
- 理想とする暮らしや生き甲斐発見

### 地域

- 斬新な視点(ヨソモノ・ワカモノ)
- 協力隊員の熱意と行動力が地域に大きな刺激を与える

### 地方公共団体

- 行政ではできなかった柔軟な地域おこし策
- 住民が増えることによる地域の活性化

## 隊員数、取組団体数の推移

年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
隊員数	89人	257人	413人	617人	978人	1,629人 (1,511人)	2,799人 (2,625人)	4,090人 (3,978人)	4,976人 (4,830人)
団体数	31団体	90団体	147団体	207団体	318団体	444団体	673団体	886団体	997団体

※総務省の「地域おこし協力隊推進要綱」に基づく隊員数

※平成26年度以降の隊員数は、名称を統一した「田舎で働き隊(農林水産省)」の隊員数(26年度:118人、27年度:174人、28年度:112人、29年度:146人)と合わせたもの。カッコ内は、特別交付税算定ベース。

隊員の約4割は  
女性

隊員の約7割が  
20歳代と30歳代

任期終了後、約6割が  
同じ地域に定住  
※H29.3末調査時点

## 柿崎区の黒川・黒岩地区における中山間地域振興対策

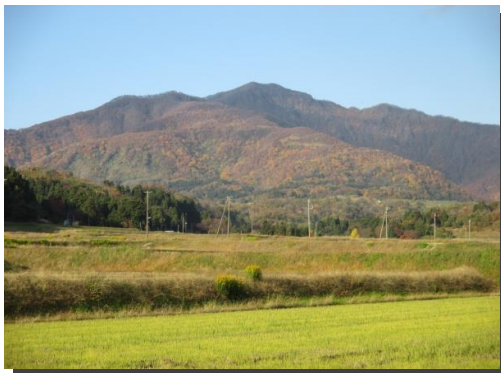
# 地域おこし協力隊による新たな担い手確保と 地域の皆さんと共に取り組む地域づくり

### 1 地域の実情・特性と地域おこし協力隊導入の意義

- ・黒川・黒岩地区の中山間地域 11 集落（198 戸）においては、広域集落協定に参加し一体化した地域となっており、これまで柿崎区中山間地域農業振興会による農地の保全と集落の維持が図られてきた。
- ・柿崎区中山間地域農業振興会では、柿崎を食べる会を事務局として、若い担い手を中心に活動しており、外部から人材を求めながら中山間地の農業のサポートはもとより、地域振興の活動にも携わってきている。
- ・柿崎を食べる会の地域の信頼は厚く、新たな発想による取り組みは地域一帯となつて行われている。
- ・このような実態を踏まえ、11 集落全体で活動する地域おこし協力隊 2 人を導入し、更なる地域の活性化を目指すものである。

### 2 地域が求める協力隊員像

- ・田舎暮らしに興味があり、恵まれた水と豊かな土壌で米作りと野菜づくりを行い、将来的に就農で生計をたてる意欲のある隊員
- ・地域で行われている地域振興策を新たな発想を持って取り組む意欲のある隊員



「越後富士」と呼ばれる霊峰米山



「平成の名水百選」の大出口泉水

### 3 協力隊に求める活動内容

区分	仕事・活動の内容	サポート	
農業 振 興	<p><b>農地の維持（稲作）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・農地の新たな担い手として稲作に取り組む。従事場所は黒岩校区、上中山校区</li> <li>・平成の名水百選に選ばれた大出口泉水の恵みを受けて栽培されている「大出口泉水棚田栽培米」を耕作するとともに、小分け購入等の消費者ニーズに対応し販売を広げる。</li> </ul>	<p>黒岩校区 上中山校区 柿崎を食べる会</p>	
	<p><b>よこやま人参の栽培継承</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・東横山の土地は、野菜栽培に適した土壌であり、人参を60年以上作り続けている。以前は市場にも出荷していたが、現在は4人が栽培し、個人販売を続けている。「よこやま人参」を継承し栽培する。</li> </ul>	<p>黒岩校区 柿崎を食べる会</p>	
	<p><b>黒岩だいこんの試験栽培</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年、南黒岩ではJAの指導を受けて「黒岩だいこん」の試験栽培を始めた。収穫した大根を地元の割烹に持ち込み、美味しい食べ方を研究している。引き続き試験栽培を続け、栽培面積を増やし販路と出荷量の拡大に取り組む。</li> </ul>	<p>黒岩校区 柿崎を食べる会</p>	
	<p><b>干し柿の特産品化に向けた取組</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・東横山の作業小屋を借り、地域の高齢者から指導を受けて干し柿づくりを行い、販路を開拓している。今年は2,000個の干し柿を作り、柿の苗木も植樹した。</li> </ul>	<p>柿崎を食べる会 黒岩校区</p>	
	<p><b>庭先集荷サービスの実施</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・農産物を出荷する手段やルートのない中山間地域に「生きがい」を生み出し活性化を図るため、高齢者が作った農産物を集荷し、地元のスーパー、ホテルなどに販売している。生産者、販売先拡大に取り組む。</li> </ul>	<p>柿崎を食べる会</p>	

区分	仕事・活動の内容	サポート	
地域振興	<b>大出口で地域の活性化の取組</b>		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大出口で冷やしそうめんやニジマスの塩焼きを提供し、涼と食を楽しめる場の復活のための取組を行う。</li> <li>・大出口泉水が注ぎ込む棚田で酒米を作り、大出口泉水を使って酒を造っている（柿崎名水農醸プロジェクト）。田植えや稲刈りの体験イベントを実施し、販路と耕作面積の拡大を図る。</li> </ul>	黒岩校区 柿崎を食べる会	
	<b>「猿毛川遊び」の継続</b>		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夏休みの地区のイベントとして、猿毛川にニジマスを放流し、子どもたちが掴み取り体験を楽しんでいる。新企画等も盛り込み継続する。</li> </ul>	上中山校区 ガンバ米山 柿崎を食べる会	
	<b>地域団体活動への参加・協力</b>		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域おこし団体が開催しているイベント等の企画、運営に参加する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>➢16ピース：黒川黒岩ふれあい祭り</li> <li>➢ガンバ米山：桜広場の整備</li> <li>➢米山山麓ファン倶楽部：ふれあい市場（山開き登山で出店）</li> </ul> </li> </ul>	16ピース ガンバ米山 米山山麓ファン倶楽部	
<b>下牧ベース993の活用</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・米山には年間2万人ほどの登山者がある。平成27年春に完成した、米山登山道（下牧口）休憩施設「下牧ベース993」で、交流が図られるような情報発信やイベントの取組を地元の皆さんと検討する。</li> </ul>	下牧校区		
<b>中山間地盛り上げ隊の活動に参加</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「中山間地を盛り上げるために協力したい」という人たちの組織。集落の普請を手伝ったり、地域を理解していただくための田植え体験や稲刈り体験、まつりなどに参加したりする。</li> </ul>	柿崎を食べる会		

## 4 受入れサポート体制

(1)柿崎区中山間地域農業振興会（柿崎を食べる会）が全面的にサポート

内 容	主にサポートする者		
	中山間地域農業振興会		
総 括	総括主任：山本文雄（会長）、総括副主任：中村和彦（事務局長）		
生 活	居住地の集落代表（黒岩校区）	居住地の集落代表（上中山校区）	柿崎を食べる会 農家組合
農業振興	地域（黒岩校区）	地域（上中山校区）	
地域振興	柿崎を食べる会		

➤猿毛の今井農家組合長は20年前都会から移住し就農した一人、また、柿崎を食べる会のメンバーは40歳代中心の担い手であり、都会から移住した新規就農者（岸田健、曾田直人）もいるため、メンタル面のサポートもできる。

(2)任期終了後も定住、新規就農のサポートを継続（平成31年度～）

項 目	内 容		
農 業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新規就農総合支援事業の補助金を活用し、就農研修することが可能。</li> <li>・庭先集荷サービス事業</li> </ul>		
地域振興	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中山間地域農業振興会の事務局</li> </ul>		
その他 (冬期間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・除雪補助</li> <li>・郵便配達</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・酒蔵で酒造り</li> <li>・灯油配達</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・移動販売車の補助</li> <li>・スキー場</li> </ul>

### □生活モデル

モデルA	モデルB	モデルC
水稲 3ha 300万円 庭先集荷サービス事業 25万円 除雪補助（冬期3か月）100万円	水稲 3ha 300万円 園芸 自家消費 酒造り（冬期3か月）100万円	水稲 3ha 300万円 郵便配達（冬期3か月）60万円 中山間地域農業振興会事務局 40万円

### (3)住 居

住居は、住宅の改修が完了するまで、下牧の体験交流宿泊施設「いなか体験ハウス」を利用する。



## 5 今後のスケジュール

- |                      |                             |
|----------------------|-----------------------------|
| ➤地域おこし協力隊募集期間        | 平成27年12月10日(木)～平成28年2月1日(月) |
| ➤柿崎区現地見学会            | 平成28年1月16日(土)～17日(日)        |
| ➤JOIN 移住・交流&地域おこしフェア | 平成28年1月17日(日)               |
| ➤地域おこし協力隊員選考試験       | 平成28年2月6日(土)～7日(日)          |

## 上越市地域おこし協力隊 宮本隊員の活動報告

### 1 菖蒲地区の現況、隊員の活動計画（及び各年度の総括）

- ・大島区菖蒲地区は、過疎高齢化が進む地域であり、離農者が増加傾向にある。
- ・農地等を守るため「菖蒲生産組合」が地域の担い手となり、残された農地を引き受けているが人手が不足しつつある。
- ・菖蒲生産組合は、地域の農業支援（稲作）のほか、高原野菜の栽培・販売、菖蒲地区で行われる各種イベントも担っているほか、飯田邸を核とした地域振興の活動や伝統・文化の継承にも関わっている。
- ・この菖蒲生産組合及び菖蒲地区振興協議会（菖蒲地区内の町内会長等で構成される団体）が地域おこし協力隊の活動を全面的に支援することで、地域住民とのふれあい促進や地域イベントを通じた交流や協力隊の参画などを図っている。
- ・大島区地域おこし協力隊の年間活動計画は、1年目は「地域を知る・地域に慣れる」、2年目は「地域と連携し「やりたいこと」を試す」、3年目は「やりたいことを実施する」と定めたところである。
- ・1年目は、菖蒲生産組合を支援しながら、自らが企画した高齢者支援（地域支え合い事業とのタイアップ）を行い、2年目は市内の若年層の誘客に向けた「いいだていかふえ」を企画・運営するなど、活動計画に沿った取組等は概ね目標を達成することができている。

### 2 地域が求める協力隊員像

- ・高原野菜や米などの生産に始まり、新規オープンする農村レストランでの季節の食材を使った食事提供まで、自分の特技や資格を生かしながら、住民の皆さんとともに取り組む意欲のある隊員

### 3 宮本隊員のプロフィール

- ・宮本 小雪（みやもと こゆき）
- ・22歳（平成28年4月採用時） 女性



## 4 隊員の主な活動

### ○【取組1】農業生産支援

- ・ 菖蒲生産組合（農作業と米販売、高原野菜の栽培・販売）の補助

### ○【取組2】文化継承

- ・ そば打ち技術の取得
- ・ 菖蒲深山そばの提供促進（いいだていかふえでの提供）
- ・ 地域の歴史や文化の情報収集

### ○【取組3】地域振興支援

- ・ 農村レストランの開店・運営支援
- ・ 「いいだていかふえ」の開店・運営支援
- ・ インバウンド（台湾観光・メディア、中国観光）の受入れ支援
- ・ 地域の情報発信、フェイスブックによる自身の情報発信

### ○【取組4】集落支援

- ・ 地域または集落のまつり等の支援及び参加
- ・ 高齢者サロンの企画・実施
- ・ 高齢者たまり場開設の運営支援
- ・ 高齢者買い物支援

## 5 活動報告（平成28年4月～）

### ○採用・辞令交付

- ・ 平成28年4月1日に市長から辞令交付を受ける。
- ・ 着任当初は総合事務所に勤務していたが、6月からの地元での勤務に際し、自身のプロフィールを作成して地域住民の挨拶を兼ねながら全戸配布を行い、地域の方々に顔を覚えてもらえるよう努めた。



### ○菖蒲農村環境改善センターへの勤務

- ・ 6月1日から勤務先を菖蒲農村環境改善センターへ移し、より地域住民の身近なところで活動を実施するとともに、地域住民の憩いの場としてセンターを解放する。



## ○【取組1】農業生産支援

<平成28年度～>

- ・農作業（稲作）は、着任早々、4月9日のすじ蒔きに始まり、5月の田植えや9月の稲刈りまでの米作りの一連の作業や菖蒲生産組合の活動を通じ、時期ごとの農作業を学ぶとともに、作業を通じて地域住民との交流を深める。



- ・高原野菜も同様に、栽培から「あるるん畑」への出荷や販売までの作業を手伝いながら、生産組合や個人農業者が栽培する地元の野菜について学ぶ。
- ・また、菖蒲生産組合が販売するタマネギのパッケージシールの製作も行う。



## ○【取組2】文化継承

<平成28年度～>

- ・菖蒲深山そばまつりや各種イベントの際に提供する「菖蒲深山そば」のそば打ち技術の取得に向け、そば打ち教室の手伝いを行う。
- ・一方で、地域の歴史や文化を知るため、村史等による学習と、積極的な地域住民との対話を行い、菖蒲地区の歴史・文化のほか、地域の特徴について学ぶ。

<平成30年度～>

- ・地元特産品である菖蒲深山そばや観音清水のPRと提供の促進に向け、平成30年度から「いいだていかふえ」のメニューに菖蒲深山そばを追加（若干カフェ風にアレンジ）する。

## ○【取組3】地域振興支援

<平成28年度>

- ・「農村レストラン」は、地元協議が整わず、オープンには至らなかったものの、国の有形固定文化財である飯田邸にて様々なイベントが開催されるほか、飯田邸や菖蒲生産組合の視察受入、または地域住民の要望に応じた法要等の際には食事を提供しており、隊員も地域と連携しながら、事前準備や当日作業を行う。
- ・また、菖蒲生産組合のHP（とことん しょうぶ）の更新や上越市地域おこし協力隊のフェイスブックが開設されたことから、隊員の活動やイベント時の情報を適宜発信する。

<平成 29 年度～>

- ・毎年開催されてきた「山菜まつり」を「ビュッフェ」に変え、より多くの来客者の利用を図る。
- ・また、飯田邸では地域または大島区のイベントが開催され、市内外からの来客はあるものの、若年層の利用促進に向け「いいだていかふえ」をオープンする。
- ・地元食材を取り入れた、若者向けの料理を提供することで、飯田邸の利活用を図るとともに、農村レストランの予約営業に向けた取り組みを実施する。
- ・飯田邸へのインバウンド（台湾・中国の観光・台湾メディア）が増加し、受入れ支援を行うなか、飯田邸と合わせて、隊員が台湾メディアに取り上げられる。  
(いいだていかふえやインバウンドの来客数は別紙参照)



<平成 30 年度>

- ・飯田邸への来客者が増加しており、飯田邸（歴史や建造物）に関する質問が多いことから、情報収集・整理を行い、今年度、3か国語に対応した「飯田邸パンフレット」を作製する。

## ○【取組 4】 集落支援

<平成 28 年度～>

- ・地域の様々なイベントには積極的に参加し、地域の若手の一員として活動するなか、地域の若手が発起し、解散していた青年会を 29 年度に復活させ、少ない人数ながら地域行事に参画する。
- ・併せて、高齢者支援に向け、地域支え合い事業（大島まちづくり振興会）と連携し、隊員の企画を取入れたサロンも開催する。



<平成 29 年度～>

- ・地元高齢者のいきがづくりや健康増進、買い物支援に向け「高齢者たまり場開設」事業を週 1 回開催し、若かりし頃のビデオ上映のほか、ネットスーパーの活用による買い物支援を実施する。



<平成 30 年度～>

- ・ネットスーパーについては、インターネットによる買い物に慣れていない高齢者が利用に至るには時間を要するため、上越や十日町のジャスコや百均ショップへの買い物ツアーを 7 月から実施
  - … 菖蒲地区振興協議会が「地域支え合い事業」のクルマを利用して実施
  - … 隊員は高齢者（参加者）の昼食や買い物時のサポートのため随行・支援



## ○【その他取組・支援】

<平成 28 年度>

- ・木田庁舎「中山間地域情報コーナー」の製作
- ・自身のスキルを活かし、地域等から相談があれば、菖蒲以外の地域を含む、イベント・町内会のまつりのチラシやポスター製作を支援

<平成 29 年度>

- ・菖蒲高原コテージのインターネット予約開始に伴う管理人等へのタブレット操作指導
- ・大島中学生による大島区活性化プロジェクトの企画・立案ワークショップに地域住民アドバイザー（区内の若手の一人）として参加

<平成 30 年度>

- ・いいだていかふえや高齢者たまり場事業を次年度以降も継続するため、地域住民主体の運営に移行するよう、現在は主に運営指導及びサポーターとして活動

## 6 協力隊導入の波及効果（地域の変化）

### ■ Uターン及び定住への影響

- ・地元から上京していた 20 歳半ばの女性が、実家の後継に悩み Uターンを考えていたとき、隊員が始めたカフェや地域住民（菖蒲生産組合や飯田邸保存会）が頑張っていることをインターネット等で知り、Uターンし、地元（生産組合）に就職することを決意
- ・現在は家業を行いながら、いいだていかふえの調理部門を担いつつ、繁忙期には生産組合の農作業等にも従事

### ■ 菖蒲地区の取組及び知名度の向上

- ・菖蒲生産組合のHPや協力隊の Facebook 等による情報発信はもとより、隊員自身の努力や真面目さ、愛嬌から多くのファンを引き付け、菖蒲への誘客または知名度向上に寄与
- ・いいだていかふえは勿論のこと、高齢者たまり場事業においては隊員に会うことを楽しみに参加されるお年寄りも多数

### ■ 菖蒲地区の地域振興の加速化

- ・平成 23 年の長野県北部地震により甚大な被害を受けた菖蒲地区であったが、復興に向けたコミュニティ再生や交流・活性化に向けて描いたビジョンを着実に進めていく中、協力隊の導入は地域に活力を与え、連携を促し、地域の振興を大きく進展させることに寄与
- ・また、地域全体が隊員の想いや考えを真摯に受け止め、それを地域振興へと結びつける積み重ねにより、地域全体が一丸となり、新たな試みにもチャレンジする気運も醸成

### ■後継者育成・イベントスタッフへの配慮

- ・これまでの地域リーダー自らが企画・運営する体制から、若手を含め役割が分散化されたことから、後継者の育成促進や地域住民の自信及び責任感が醸成
- ・また、これまでは一部役員等で決定していたイベントや取組については、実際にそれを下支えする女性層の声を聴き、内容によっては打合せ時に参加させるなど、イベントスタッフ等への配慮にも変化が発生

### ■飯田邸の地域のシンボル化・拠点施設の認識

- ・「いいだていかふえ」の営業のほか、結婚式を挙げていない若夫婦のため、地元の若手有志が飯田邸で披露宴を開催するなど、飯田邸で様々な取組やイベントが開催されることにより、地域住民に拠点施設としての認識が浸透